

2006年 世界COPDデー推進日本大会 メディアフォーラム速報

日本における COPD啓発活動

COPDの診療は、かかりつけ医と専門医の連携で

2006年11月19日(日) 国立京都国際会館

このリーフレットは、メディアフォーラムの「日本におけるCOPD診療の課題と取り組み」をまとめたものです。

日本におけるCOPD診療の 課題と取り組み

- 日本におけるCOPD啓発活動
福地 義之助氏(世界COPDデー日本委員会 委員長)
- 世界COPDデー
日本での取り組みとその成果(02-06)
ビデオプレゼンテーション
- 日本呼吸器疾患患者団体連合会からの
メッセージ
遠山 雄二氏(日本呼吸器疾患患者団体連合会 患者代表)

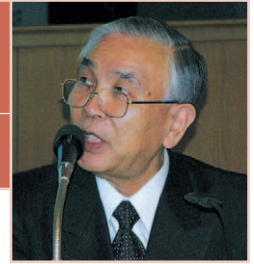


2006年11月15日は第5回世界COPDデー

- 主 催: 世界COPDデー日本委員会
共 催: アストラゼネカ株式会社、アボットジャパン株式会社、大塚製薬株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、帝人ファーマ株式会社、
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、ファイザー株式会社、三菱ウェルファーマ株式会社
協 賛: アルタナ・ファルマ株式会社、田辺製薬株式会社
後 援: 福岡市、福岡県医師会、京都市、京都府医師会、日本医師会、日本呼吸器学会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
協 力: チェスト株式会社、京都禁煙推進研究会

日本におけるCOPD啓発活動

福地 義之助氏 (世界COPDデー日本委員会 委員長)



日本においてもCOPD死亡者数が増加している

まず、日本におけるCOPDの現状と問題点についてお話しします。COPDの死亡者数は年々増加し、2005年には1万4,416人で、日本人男性の死亡原因の7位となりました(図1)。2004年の8位から順位が上がり、喘息の死亡数3,000人弱に比べて5倍近い死亡数です。喘息は非常に多い病気ですが、死亡数ではCOPDの方が圧倒的に多くなっています。COPDが死の脅威に晒されている病気であることを示しています。

未診断患者、未治療患者が多い

2002年の厚生労働省の調査によると、COPD患者数は21万3千人です。しかし我々が行った大規模疫学調査NICEスタディの結果では約530万人の患者がいると推定されました。実に95%以上が未治療、または他の疾患と誤って診断されていると考えられています(図2)。多くの患者が重症になって初めて医療機関を受診して、治療を受けているというのが現状です。したがって、生活の障害が進んだ患者が多く、増悪によって入退院を繰り返したり、在宅酸素療法が必要になり、医療費も高くなってしまいます。

COPDの初期症状は、咳、痰、息切れなどです。咳や痰などのありふれた症状の場合、COPDのような重大な病気とは多くの患者が考えません。また、我が国では息切れで初発する患者がかなり多いのですが、この症状もある程度進行するまで気づかなかったり、年のせいなどと放置されがちです。患者には息切れが非常に重要だということ、咳、痰を伴う場合にはCOPDを疑ってほしいということをお伝えしたいと思います(図3)。医師側の問題として、初期診療にあたる医師は、血圧、血糖などの臨床検査は頻繁に行いますが、スパイロメトリーを用いた呼吸機能の検査はあまり行っていません。また、我が国では呼吸器専門医の数も比較的少ないという状況があります。さらに、家庭医、プライマリケア医の多くは、COPDに関する治療経験が少なく、診断や治療に積極的でないということもあります。COPDの治療法の研究・開発は進んではいますが、プライマリケア医に十分知られておらず、早期診断・治療に結びついていないのが現状です。この問題をどのように改善するのが重要なポイントです。

医療関係者の連携と市民への啓発が重要課題である

COPDは早期に診断、治療することによって、また医療が進歩することによって、生活への障害を最低限にすることが可能であり、医療費負担も抑制できる病気です。COPDの早期診断、治療を考える場合、それを取り巻く患者や家族はもちろんのこと、患者団体、プライマリケア医、専門医、マスメディア、行政など患者環境に関与する多くの人々が一致して努力をすることが必要で、そのための啓発運動が非常に重要です(図4)。

私たちは2002-2006年までの5回、啓発運動として、世界COPDデー推進日本大会を開催してきました。本年度の世界COPDデー推進日本大会2006は、「COPDの診療は、かかりつけ医と専門医の連携で」をテーマとしています。一般市民向けにはCOPDのチェックイベントを福岡と京都で行い、報道関係の皆様にはメディアフォーラムをここ、京都国際会館で本日開催しています。多くの人々にCOPDを知ってもらい、早期診断、早期治療が実現できるように、メディアの力をお借りしながら、これからも啓発活動に力を入れていきたいと思ひます。

図1

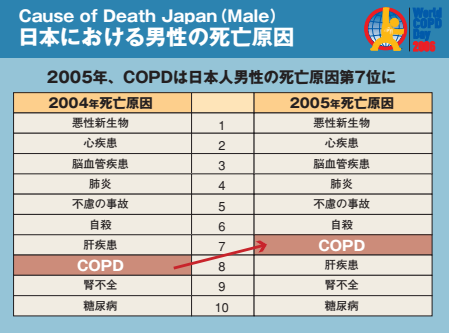


図2

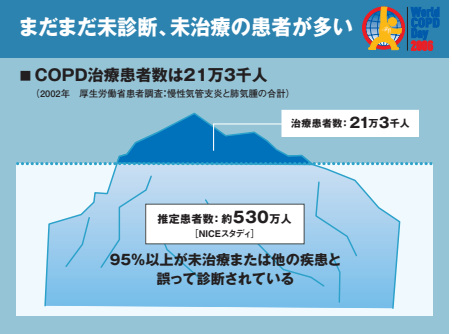


図3



図4



世界COPDデー 日本での取り組みとその成果 (02-06)

(ビデオプレゼンテーションより抜粋)

2003年 メディアフォーラム



2004年 メディアフォーラム



2005年 COPDチェックイベント



2005年 メディアフォーラム



開催年	メディアフォーラム (マスコミ向けイベント)	COPDチェックイベント (一般向けイベント)
2002	「慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 早期治療推進のために」 ～第1回「世界COPDデー」(11月20日)を前にして～ 【東京】	なし
2003	「COPDをめぐる最近の進展と諸問題」 ～今こそ注目!肺の病気COPD～ 【東京都 順天堂大学 10号館1F会議室】	1秒率70%未満の人の割合— 7.3% (33/452名) 【東京都 東京駅】
2004	「見過ごさないで、COPD」 ～世界の死亡原因第4位のCOPDは、予防でき治療できる病気です～ 【東京都 銀座ソニービル ソミドホール】	1秒率70%未満の人の割合— 8.2% (53/643名) 【東京都 品川駅、西銀座デパート前】
2005	「COPD。みんなで知ろう、考えよう」 ～日本各地の最新の研究成果・取り組みを発表～ 【東京都 ホテルニューオータニ東京 ガーデンコート「シリウス」】	1秒率70%未満の人の割合— 7.6% (79/1044名) 【東京都 西銀座デパート前、京都市 ゼスト御池】
2006	「COPDの国際ガイドライン「GOLD」の改訂を発表」 ～COPDの診療は、かかりつけ医と専門医の連携で～ 【京都市 国立京都国際会館 Room C-2】	1秒率70%未満の人の割合— 9.1% (73/803名) 【京都市 ゼスト御池、福岡市 バサージュ広場】

世界COPDデーが制定された2002年には、東京でマスコミ関係者を集め、世界COPDデーとGOLDの活動について、日本の患者の声を交えて発表しました。2003年には、呼吸器専門医、厚生労働省、日本医師会、薬剤師、臨床検査団体、患者などの関係者とともにCOPDを考える講演会を実施しました。この年に特筆すべきは、COPDのシンボルとして「GOLDリボン」を開発したことです。2004年には、世界COPDデーの日本における活動母体として、世界COPDデー日本委員会が組織されました。この年のメディアフォーラムでは、アメリカの患者団体代表と、日本の患者代表を交えて、COPD早期診断の重要性について訴えました。2005年には、京都市での一般イベントの結果を含め、世界COPDデー日本委員会の6人の専門医がCOPDに関する研究や学会活動の進展についてメディアフォーラムで講演しました。そして2006年には、GOLD執行委員会のメンバーによりGOLDの新ガイドラインが発表されました。また、2002-2006年の世界COPDデーの活動をまとめたDVDを作成し、メディアフォーラムにて紹介しています。

世界COPDデー 日本での取り組みとその成果 (02-06)

(ビデオプレゼンテーションより抜粋)

2003年 メディアフォーラム



2004年 メディアフォーラム



2005年 COPDチェックイベント



2005年 メディアフォーラム



開催年	メディアフォーラム (マスコミ向けイベント)	COPDチェックイベント (一般向けイベント)
2002	「慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 早期治療推進のために」 ～第1回「世界COPDデー」(11月20日)を前にして～ 【東京】	なし
2003	「COPDをめぐる最近の進展と諸問題」 ～今こそ注目!肺の病気COPD～ 【東京都 順天堂大学 10号館1F会議室】	1秒率70%未満の人の割合— 7.3% (33/452名) 【東京都 東京駅】
2004	「見過ごさないで、COPD」 ～世界の死亡原因第4位のCOPDは、予防でき治療できる病気です～ 【東京都 銀座ソニービル ソミドホール】	1秒率70%未満の人の割合— 8.2% (53/643名) 【東京都 品川駅、西銀座デパート前】
2005	「COPD。みんなで知ろう、考えよう」 ～日本各地の最新の研究成果・取り組みを発表～ 【東京都 ホテルニューオータニ東京 ガーデンコート「シリウス」】	1秒率70%未満の人の割合— 7.6% (79/1044名) 【東京都 西銀座デパート前、京都市 ゼスト御池】
2006	「COPDの国際ガイドライン「GOLD」の改訂を発表」 ～COPDの診療は、かかりつけ医と専門医の連携で～ 【京都市 国立京都国際会館 Room C-2】	1秒率70%未満の人の割合— 9.1% (73/803名) 【京都市 ゼスト御池、福岡市 バサージュ広場】

世界COPDデーが制定された2002年には、東京でマスコミ関係者を集め、世界COPDデーとGOLDの活動について、日本の患者の声を交えて発表しました。2003年には、呼吸器専門医、厚生労働省、日本医師会、薬剤師、臨床検査団体、患者などの関係者とともにCOPDを考える講演会を実施しました。この年に特筆すべきは、COPDのシンボルとして「GOLDリボン」を開発したことです。2004年には、世界COPDデーの日本における活動母体として、世界COPDデー日本委員会が組織されました。この年のメディアフォーラムでは、アメリカの患者団体代表と、日本の患者代表を交えて、COPD早期診断の重要性について訴えました。2005年には、京都市での一般イベントの結果を含め、世界COPDデー日本委員会の6人の専門医がCOPDに関する研究や学会活動の進展についてメディアフォーラムで講演しました。そして2006年には、GOLD執行委員会のメンバーによりGOLDの新ガイドラインが発表されました。また、2002-2006年の世界COPDデーの活動をまとめたDVDを作成し、メディアフォーラムにて紹介しています。